

令和5年度 第1回静岡市在宅医療・介護連携協議会会議録

- 1 日 時 令和5年6月2日（金） 19時15分～20時00分
- 2 場 所 静岡市役所 新館9階 特別会議室
- 3 出席者 (オンライン出席) 稲垣委員、岩上委員、岡委員、河西委員、金原委員、窪野委員、近藤委員、瀧委員、坪井委員、東野委員、中村（美）委員、福地委員、山田委員
(欠席) 中村（敬）委員、吉永委員
(事務局) 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 酒井次長
在宅医療・介護連携推進係 森川次長補佐、北原主任保健師、白鳥主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 次 第 (1) 開会
(2) 挨拶
(3) 議事
①報告事項
令和4年度静岡市在宅医療・介護連携推進事業実績
②協議事項
令和5年度静岡市在宅医療・介護連携推進事業計画（案）
（仮称）エンディングノートの作成について（案）
(4) 閉 会
- 6 会議内容
(1) 開会 開会宣言及び会議成立の報告（委員15名中13名の出席により会議は成立）
(2) 挨拶 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部次長 酒井次長
(3) 議事

岡会長

今回、いくつかの事業報告と今年度、行うべき協議会の内容について忌憚のない意見交換をしたい。

事務局

令和4年度静岡市在宅医療・介護連携推進事業実績についての報告、説明（資料1）

岡会長

質問はありませんか。(質問なし)

事務局

令和5年度静岡市在宅医療・介護連携推進事業計画の説明(資料2)

岡会長

質問はありますか。(質問なし)

事務局

(仮称)エンディングノートの作成について(案)の説明(資料3)

(資料内容の説明)

作成については、協議会のプロジェクトチームとして考えていたが、市民に公表できる会で作成したほうがよいのではないかと市より指摘があり、検討結果を協議会へ報告するとして新たに部会を設置する。必要に応じて部会に入っていない委員より関係者として意見を求めることにしている。

構成委員は、岡会長に一任され事務局と協議した結果、協議会より9名の委員および臨時委員に就任を依頼する予定。関係者として必要な知見をもつ方を考えている。

その中で、弁護士は終活に関する法律、実際の就活、預託金の管理等に関わっている方を考えている。静岡市就活支援優良事業者認証基準策定委員に依頼予定である。

市として終活支援を実施するにあたり身元保証、終末期医療の意思の決定支援、死後の財産手続き等の代理人の支援を行う優良な事業者を認証し、高齢者や家族がいても終活が進まない方たちの終活支援をすすめていく事業を考えている。事業者を認証するにあたり、有識者を含む認証基準を策定するための委員会を立ち上げることを検討している。弁護士は、その委員会に所属する委員を予定している。

(別紙1の説明)

(資料4の説明)

岡会長

既に、エンディングノートは各市町あるいは団体より発行されている。今回は、範囲を広げて現場で役立ち市民にも役立つような内容として考案されているがいかがか。

福地委員

資料3の(2)について、②までの内容に関して専門的な知見から意見ができるのはプロジェクトチームの構成員の中では弁護士のみだと思う。相続、不動産売買については税理士の先生の助言が必要となる。税理士の先生も必要なのではないか。

事務局

財産管理は税理士、終活の実務は司法書士等と考えている。必要に応じて、必要な知見を持つ方を加えたいと考えている。

福地委員

関係者は弁護士以外の方も想定しているということでしょうか。

岡会長

協議の内容によっては、委員を増やすことは可能か。

事務局

弁護士以外も想定している。予算を鑑みながら、必要な知見を持つ方にご意見をいただけるよう検討していきたい。

山田委員

他の市町村で有効に使われているのは調べてあるのか。

事務局

各市町のものを収集している最中である。沼津市のエンディングノートは、書き込み式で、終活に必要な資料集は膨大ではないが、コラム程度に掲載されている。

当市は、書き込むものと資料集となるもので構成するよう準備をすすめている。

山田委員

冊子が完成しても記入する際に誰かにアドバイスしてもらいながらではないと、本人の知識と経験だけでは有効ではない。活用する場面で手助けする人、広範囲に経験があるようなプロフェッショナルの人がアドバイザー要員としていたほうがよいのではないかと。

事務局

作っただけで配布するのではなく、書き方等を伝えていくことが他市町で有効であることがわかっているため、在宅医療出前講座や市民の講演会を開き伝えていきたい。

岡会長

関係団体、医師会、訪問看護ステーション、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー等がそれぞれ勉強し合い、伝え手となる仕組みがよい。

河西委員

専門者が知識を出し合っていければよいものができると感じた。作成にあたり作り上げる前に使いやすさ等の試し書きを誰かにしてもらい、意見をもらうなどして作成しながら試す

などの機会があったほうがよいと感じた。

岡会長

作成しても、実際に使ってみてどうかというところで年々バージョンアップしていく必要があるかもしれない。

事務局

前回それぞれの委員が言ったとおり市民の声を入れていく必要がある。そのため、市民委員の金原委員にも作成メンバー加わっていただいている。専門職ばかりがつくるのではなく、市民の生活や社会情勢に合わせ、必要に応じてバージョンアップさせていくことを考えている。

金原委員

内容には、解説を入れ理解しやすい工夫も必要と思う。自分の思い、家族への思いをたくさん載せられるような様式がほしい。

近藤委員

ケアマネット協会では、プロジェクトチームを立ち上げた。エンディングノートは、量が多いと書くことをお手伝いする人が必要になってしまう。市民が集まる教室などで、話をしながら書き方などの説明をし、実際に書いてもらうことが必要。作成し、配布するだけではよくないという話が出ている。やはりその点がポイントだと思う。

岡会長

部会の進捗状況については、協議会の中で報告されるので、意見があればお願いしたい。

(4) 閉会

■会議録確認署名

「令和5年度 第1回静岡市在宅医療・介護連携協議会 会議録」について、
内容を確認しました。

静岡市在宅医療・介護連携協議会 会長

氏名(署名) 岡 慎一郎